



これまでの動画・報告

# 考古学と音楽教育の連携3 縄文土器をもとにした音楽づくりを中心とした教科等横断型授業の試み

中村耕作<sup>1)</sup> 早川富美子<sup>2)</sup> 渡辺ゆみ子<sup>3)</sup>

指導助言：伊野義博  
(新潟大学名誉教授)

協力：新潟市文化財センター・信濃川火焰街道連携協議会・津南町教育委員会

1) 国立歴史民俗博物館 2) 國學院大学栃木短期大学 3) 新潟市立早通南小学校

## これまでの経緯

### ◆〈考古学×アート〉の動向

- ・考古資料の新たな活用・考古資料からの創造的作品づくり
- ・アーティスト主体
- ・実物に即したもののづくり・絵画・文筆などの事例
- ・音楽については、「楽器」先行・イメージ先行

### ◆〈縄文土器×音楽づくり〉プロジェクト

- ・歴史系博物館資料をふまえた創造的学習プログラムとしての縄文土器をもとに自然素材を用いた即興的音楽づくりの提案
- ・土器片にもとづく実践(2016年度～)
- ・土器展開写真にもとづく、社会科・音楽科のクロスカリキュラム(2020年度～)
- ・土器自体の観察による、協働的・創造的な学習をめざした実践(2022年度～)
- ・これまでに小学校音楽科・中学校総合的な学習の時間・資料館・公民館などで実践を重ねる

## 新潟市立早通南小学校6年生の実践「みて、さわって、つくる 五感で感じる#doki doki #縄文文化」

### 題材について：新潟市で縄文土器を扱う意義と本授業の目的

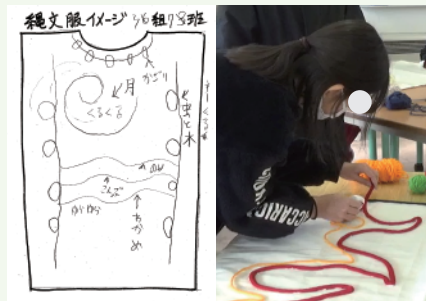
- ・信濃川・雪国を舞台とした独特の縄文文化が展開(日本遺産)
- ・地元新潟の環境や歴史文化を再発見(地域学習)
- ・過去にこの地に暮らした人々に思いを馳せる(異文化理解)
- ・新たな価値をもった創造性豊かな表現活動に挑戦する力を養う
  - ・友達、教師、外部専門家、文化施設との協働
  - ・社会科、音楽科、家庭科、体育科による教科等横断的な学習として



## 社会科：歴史学習としての縄文文化の学習・新潟県埋蔵文化財センターでの体験(7月)

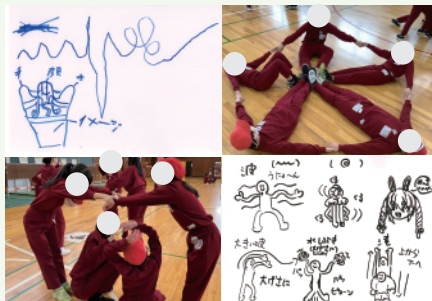
### 家庭科：冬を明るく温かく

- ・1月中旬の冬の生活の単元の中で実施
- ・縄文をイメージした衣装を班ごとに作成



### 体育科：表現運動

- ・1月中旬の4コマ分の最後に縄文土器を表現
- ・体育科担当教員による



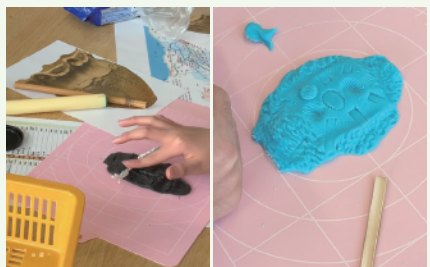
### 課外：縄文ワールド(全校)

- ・教室に自然素材と縄文風衣装を置き、全校児童が自由に触れる(1月中旬～下旬)



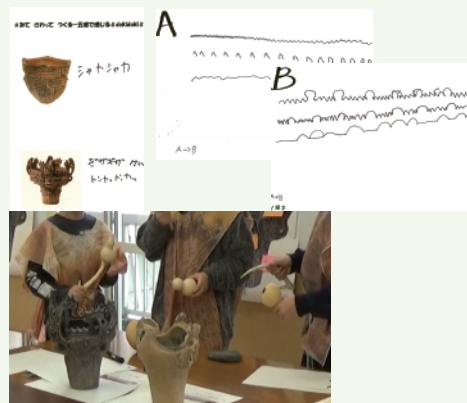
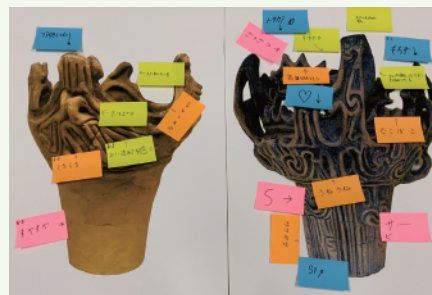
### 社会科：新潟の縄文・施文体験

- ・音楽づくりの前日
- ・新潟市文化財センター・火焰街道連携協議会の専門家から新潟の縄文の話を聞く
- ・土器レプリカや写真を見て、文様の施文を体験。独自に文様を描く児童も。



### 音楽科：縄文土器の特徴・印象をつかむ⇒自然素材で音楽として表現

- ・新潟市の縄文土器+火焰型土器の2つを観察し、特徴や気になった箇所を抽出
- ・形・文様・印象を自然素材で音として表現
- ・2つの土器にもとづく音をつなげて音楽をつくる



## 成果と課題

- ・2週間にわたり、様々な「縄文」に触れ、その最終段階で実物をもとにした創作を行った
- ・社会科・音楽科以外の教科等、特に体育科での表現運動や家庭科での衣生活との横断の実現
- ・研究代表者・分担者以外の担当教諭による実践の実現
- ・普段とは異なる児童の活躍
- ・歴史を学んでいない下級生への効果

- ・各教科の連携と評価の方法
  - ・「教科横断的な学習」としての評価・各教科としての評価
  - ・文化財サイドとしての評価
- ・実物に触れるタイミングと時間配分